

伝建地区における住民の趣味園芸の場としての空き地利用に関する研究

－八女福島伝建地区での事例研究－

Study of utilizing a vacant lot for flower garden natured by the neighbors in a preservation district -A case study of Yame-Fukushima, Fukuoka -

内野 絢香* 加藤 浩司**
Ayaka UCHINO* Koji KATO**

In this paper, we found a flower garden in the vacant lot in the historical urban area contributed to revitalizing the local inhabitants' social interactions and made their relationship strong enough to support their neighbors. A part of the vacant lot was borrowed for free and changed into a flower garden by the neighbors. We thought that this situation was caused by the characteristic the vacant lot.

The feature of this study is to consider the abovementioned phenomenon by the observational research for over 30 days at a garden that has been being maintained by the neighbors in Yame Fukushima.

Keywords: Observation survey, Vacant lot, Temporary use, Garden, Parking lot
観察調査, 空き地, 暫定利用, 花壇, 駐車場

1. はじめに

1-1. 背景

歴史的な価値のある町並みを有する重要伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）は、人びとが暮らしているからこそ成立しているものである。しかし、伝建地区における研究動向をみると、町並み景観について述べているものは多いが、生活空間としての価値を高めることを目的とする研究は少ない。本研究は、伝建地区の生活環境向上に貢献することを目指すものである。

伝建地区を含む歴史的市街地が抱える問題の一つに人口流失がある。本研究の対象とする福岡県八女市福島地区（以下、八女福島地区）のように商家町の場合、町並みを構成する建築物の多くは町家建築である。町家建築では、空き店舗化が進むと、もしくは、空き家に入居者を迎えても専用住宅として使うと、店の間の利用がないため街路空間に対して閉鎖的になりがちである。高齢化が進んだ地域で、高齢者のみの生活を想定すると、高齢者の生活が奥に閉じこもることとなり地域社会との接点が減ってしまうため、このような状況になることは望ましいとは言えない。

本研究では、伝建地区に暮らす住民による外部での特に当該住民にとって身近にある半公共的な空間での、趣味園芸活動に注目している。三好ら¹⁾による研究の成果を参照し、このような活動は、日常的な住民間交流を支えるツールになると考えるからである。

ここで改めて、本研究の主旨を整理する。前述の通り本研究は、伝建地区を含む歴史的市街地では人口の高齢化が進んでいることを想定し、高齢者が住み慣れた地域で安心して楽しく生活できることに資するものとして、半公共的な空間で行われている住民の趣味園芸活動に注目

し、その有用性の検討を行う。この結果をもって、伝建地区の住民の生活環境に貢献することを目指したい。

1-2. 目的

本研究は、八女福島伝建地区の一角にあり、空き地であった後の 2011 年頃から住民の趣味園芸の場として使われている「まちのガーデン（仮称²⁾ / 以下、ガーデン）」を対象に事例研究を行う。まずは、このような使い方をされていることが、ガーデンで作業をする住民やガーデン周辺住民の生活環境にどのような意義を持ったのかということを検討する（図 1/ 目的 1）。伝建地区は、伝統的建造物の解体をできる限り避ける対応が行われるため空き地は発生しづらい。また 2 章のとおり、空き地が出現した場合は駐車場として使う事が求められる傾向にあるため、本事例のような状況が生まれにくいと考えられる。本研究では、これらの状況を受け入れながら、住民の生活環境向上に役立つ空き地の使い方、特に高齢者が進む地域での住民の生活環境向上に役立つ空き地の使い方を考える必要があると考えているため、対象とした空き地は、住民による趣味園芸利用の場として使うことができるようになったのか（成立要因）、ということに加え、そのような利用が

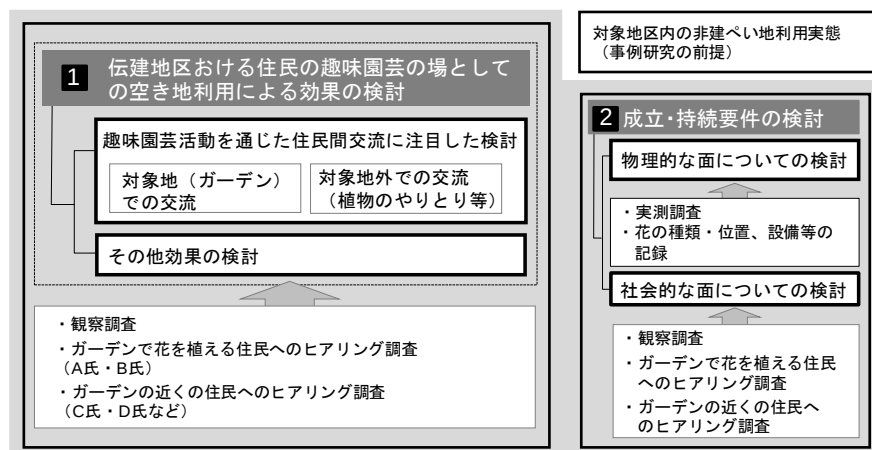


図 1 事例研究の方法

* 学生会員・熊本大学大学院 自然科学教育部（Kumamoto University）

** 正会員・国立高専機構 有明高専創造工学科建築コース（NIT, Ariake College）

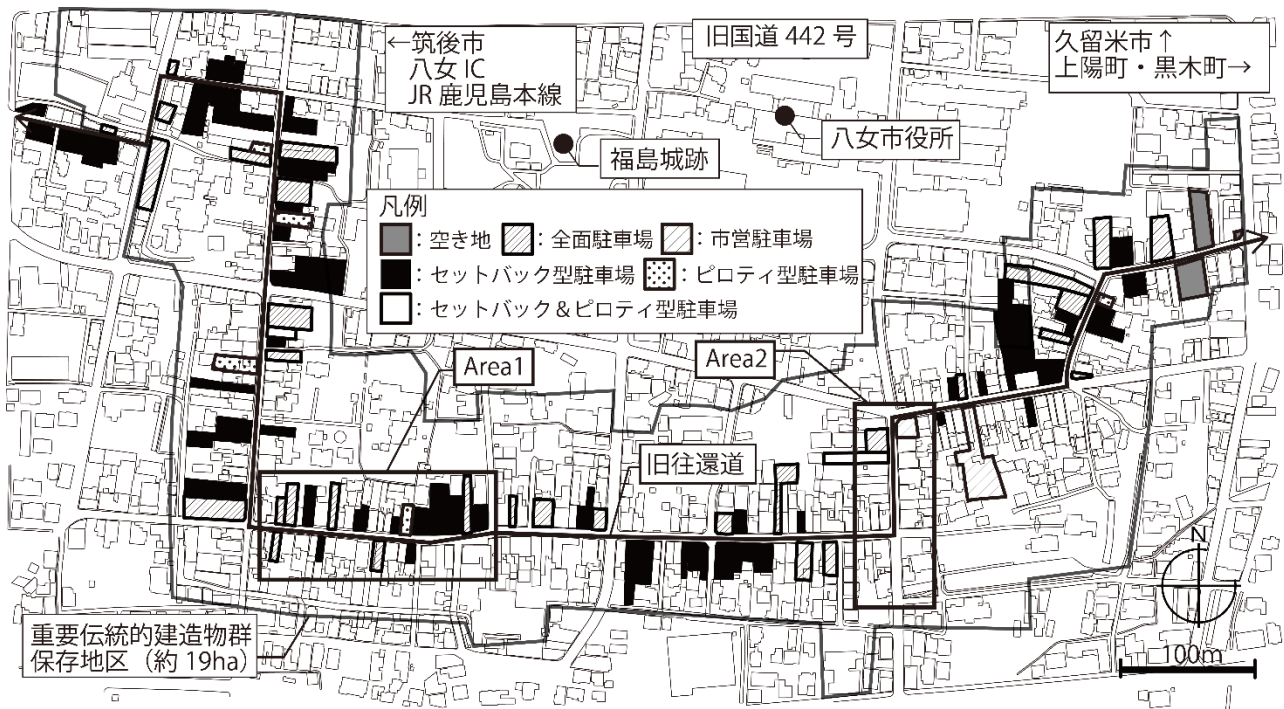


図2 八女福島地区位置図/非建ぺい土地利用図

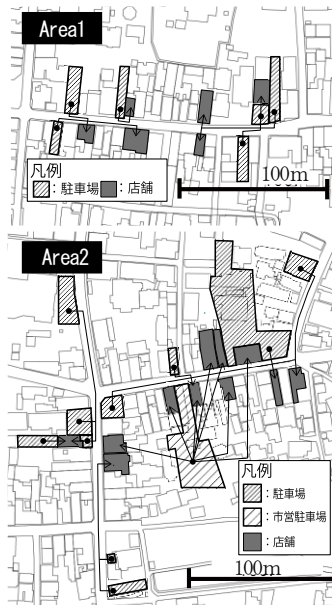


図3 月極駐車場契約者の位置関係⁽⁴⁾

継続できている要因（継続要因）についても検討を行う（図1/目的2）。なお、対象とした空き地は、ガーデンとして使われるようになった後、駐車場化が検討された。結果、当該地には駐車場が整備されたが、ガーデンはその一角で規模を縮小し今も続けられている。

2. 八女福島地区について

2-1. 概要

八女福島地区は、福岡市の南方約 50km に位置する八女市の中心市街地

であり、2002 年に地区の一部が全国で 61 番目の伝建地区（約 19ha）の選定を受けている（図2）。この地区は、商家町として栄え、旧往還道沿いを中心に江戸期から昭和期にかけて建設された町家が建ちならぶ。現在では、「NPO 法人八女町家再生応援団」が中心となり、町並み保存や空き家活用を積極的に進めている。2020 年 6 月現在、66 件の空き家が再生され、そのうち 44 件が商業利用されている⁽⁵⁾。一方、人口減少や高齢化の進行が顕在化してきている。なお八女市住民基本台帳によると、本地区がある福島校区は 2019 年 6 月時点において、人口が 6,365 人、世帯が 2,656 戸、高齢化率が 29.6%であった。

2-2. 非建ぺい地の土地利用

八女福島地区の低未利用地の分布や利用実態を把握するため、地区内の非建ぺい地まで対象を広げて土地利用調査を行った（図

2）。2019 年 5 月 12 日、旧往還道を歩き、その沿道の非建ぺい地の土地利用（調査対象 99 区画）を調査・記録した。

調査結果を図2に示す。一見して分かるように、概ね全て（96 件）が駐車場として利用されていた。これについて細かく見ると、全面駐車場、セットバック型駐車場、ピロティ型駐車場、セットバック&ピロティ型駐車場の4つに分類でき、セットバック型駐車場が 56 件と多く、次に多いものが全面駐車場で 33 件であった。また、月極の駐車場について、各駐車スペースの契約者を調べてみると、駐車場近隣にある店舗が契約するものが多かった（図3）。

八女福島地区内の非建ぺい地は、駐車場利用以外の利用はなかった。調査を行った時点で、地区内には、商業利用されている空き家活用事例が多い。伝建地区ゆえ建築物の解体が増えることはないと考えられるため、今後も商業利用が進むならば、より駐車場が求められることになるだろう。

3. ガーデンについての事例研究

3-1. 調査方法

ガーデンを対象として行う事例研究の方法を図1に示す。

調査方法としては、観察調査とヒアリング調査を行った。観察調査は、2019 年 3 月から 10 月までの 34 日間で実施した。調査時は、調査時間、園芸活動をしている人の作業時間、天気、調査開始時の気温⁽⁶⁾を記録し、ガーデンでみられた住民の行動内容と住民による交流の時間・場所を記録した。なお調査を行った時間は、4 月までに調査を重ねる中でガーデンに人びとが訪れやすい時間がある程度把握し、4 月以降は、その時間帯や調査対象とする時間が偏らない時間帯、曜日を選定し決めた。

ヒアリング調査は、ガーデンでの活動に関わる人に対して行った。ガーデンを趣味園芸の場としている A 氏（2019/10/22）と B 氏（2019/10/28）には、ガーデンで植物を植えた経緯やガーデンでの活動内容についてなどを聞いた（表1）。

表1 ガーデンで園芸をしている人の基本情報

人物	A氏	B氏
性別	男性	女性
年代	70代	70代
地域での住民活動	行政区域長、老人会会長、民生委員を経験	ガーデンの西側に自宅がある。ガーデンでの水源は自宅を利用。
ガーデンと自宅の位置関係	ガーデンの北側に自宅がある。ガーデンでの水源は自宅を利用。	ガーデンの西側に自宅がある。ガーデンでの水源は自宅を利用。
手入れの頻度	できる範囲で手入れをしている。近所の人からすると、マメに手入れをしている印象。	手入れの頻度は不明だが、毎朝ガーデン内の道を掃いている。
植える花について	新品種や珍しい花。寄せ植えをしている。多くは地植えで育てているが、鉢に育てているものもいくつかある。	あじさい、洋蘭、ひまわり、コスモス等。1つの花を1面に植える植え方が好き。鉢植えで育てている。挿し木をして増やしている。

表2 ガーデンと関わりがある人の基本情報

人物	C氏（女子会メンバー）	D氏（筆者2の妻）
性別	女性	女性
年代	80代	30代
地域での住民活動	ほぼ毎日自宅の前庭空間で女子会が行われている。	自宅で商売を営んでいるため、生活を地域に開いている。
ガーデンと自宅の位置関係	自宅から半径70m圏内にガーデンがある。	自宅から半径80m圏内にガーデンがある。
園芸空間	自宅の軒先を利用し、プランターで花を育てている。	自宅の軒先を利用し、プランターで植物を育てている。庭にも地植えで植物を育てている。
手入れの頻度	女子会時に日常的な手入れを行っている。時々A氏が勝手に手入れをしてくれる。	水やりなどはほぼ毎日行う。週に1回は草とりなどの手入れをしている。

2019年1月（植えられているもの、一部記載※2019年5月時点に確認）

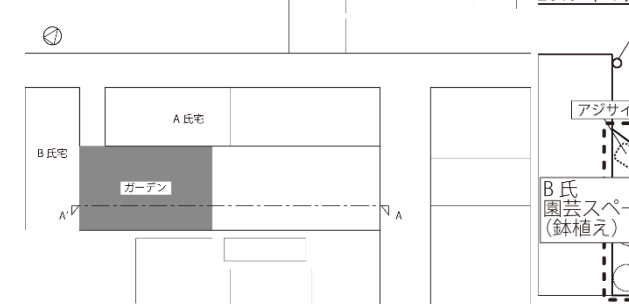


図4 ガーデン位置図

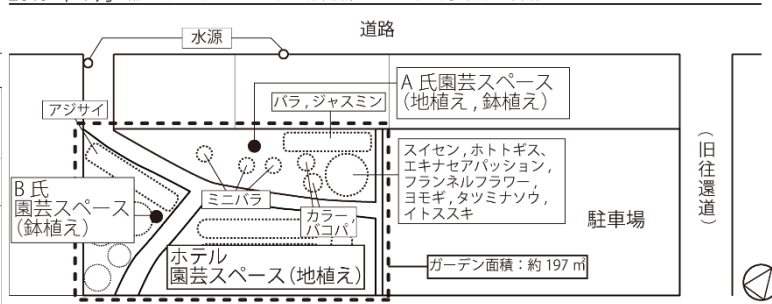


図5 ガーデン平面構成

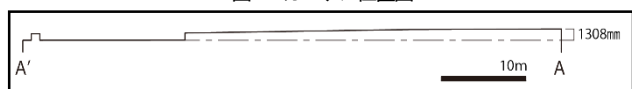


図6 ガーデンのA-A' 断面図

ガーデンの近所でしばしば開かれる「女子会（後述）」に参加する住民（高齢者）にも、この会への参加を重ねて親睦を図る中でヒアリング調査を実施した（2019/10/28）。理由としては、女子会に参加する住民はガーデンの近く（100m 圏内）に住んでおり、その中にはガーデンに足を運び、ガーデンで開かれる「お茶会（後述）」に参加したりする住民やA氏やB氏と植物のやりとりをする住民（主にC氏）がいたためである。また、女子会参加者以外にも、ガーデン近くの住民で、A氏と植物のやりとりをしばしば行うD氏（筆者2の妻）にもA氏との交流について聞いた（表2）。

3-2. ガーデンの概要

ガーデンは、旧往還道に面する細長い土地の一角（奥）にあり、面積は約197㎡である（図4/図5）。当該地には図6の通り、旧往還道から奥に行くに従い約1mの高低差がある⁶⁾。後述するが、ガーデンは、2019年1月から駐車場（借地）として使われることになり、ガーデンの規模もそれにあわせて縮小された。

ガーデンのある行政区には、高齢者のみで生活する人が多く、子どもは少ない。公民館を所有していないため、地域住民が気軽に集える交流拠点のような場所もない。このような状況の中、前述した女子会（自称）という近くに住む高齢者の集い（話題は主に世間話）が始められることになった。女子会は、気候によるがほぼ毎日、女子会参加者の1人（C氏）の自宅の前庭側の軒先で行われている。

ガーデンで花壇づくりをする住民（A氏・B氏）の基本情報を表1に示すが、以前から園芸を趣味にしていたことは両者に共通する。また両者は、町内に住む高齢者のことを気にかける、住民からの信頼も厚い。その中でもA氏は、ガーデンで園芸を始めてから近所に暮らす高齢者と日常的に接点を持つように心がけていた。

3-3. 趣味園芸の場として利用が始められた経緯

ガーデンがある土地にはかつて店舗があったが、この建物は取り壊され、当該地は空き地となった。その後、土地の所有者⁷⁾から当時の行政区域長に対して「町内でこの土地を使ってもらって構わない」という申し出⁸⁾があり、2011年頃から、所有者の厚意のもとで当該地は町内会が使うこととなった。なおB氏は空き地になってしばらくした後、自身の園芸スペースの拡張を目的として、鉢植えを置いていた。

町内会で土地を使うことになった時、その使い方について、町内の住民からは、ゴミ収集場所（週2回）として使うこと、知人・友人が来た時に駐車場として使うこと、町内の一斉掃除で草取りをするという意見が出されたが、日々の利用についての提案はなかった。そこでA氏は、旧往還道から見て奥側（A氏の自宅裏）の半分程度の土地を使い、花壇づくりをすることにした。この時、A氏が花壇づくりを行おうと考えたのは、町内には子どもが少なく高齢の女性が多いため、花を植えればみんなが喜んでくれるのではないかと考えたからであった。また、A氏自身も花を育てることが好きで、以前から自宅のオモテ側などに花を植えていた。

3-4. ガーデンの経過

(1) ガーデンができてから（2018年まで）

A氏は、この花壇を先述したように「まちのガーデン」と名付けた。

ガーデンで園芸をすることを決めた時にA氏は、自宅前以外に園芸スペースが欲しいからガーデンで園芸をするという意識ではなく、町内のために使う場所であるという意識を強く持っていた。そのため、A氏は町内の人たちが楽しめるよう、花壇だけでなく、お花見をするため桜の木を植えていた。またB氏も一面に咲く花を楽しめるよう、菜の花やコスモスを植えた。A氏は、植えた花が見ごろの時に、町内の老人会に入っている高齢者に声をかけ、「お茶会⁹⁾」をしばしば行っていた。このお茶会では、A氏が机や椅子を用意し、B氏はお茶とお茶菓子を用意して訪れた人をもてなしている。参加者はこのお茶会を楽しみにしており、A氏や

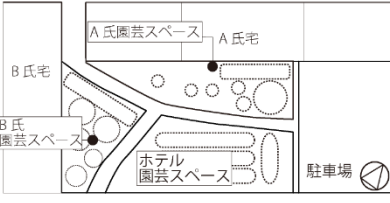
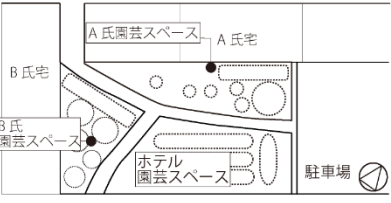
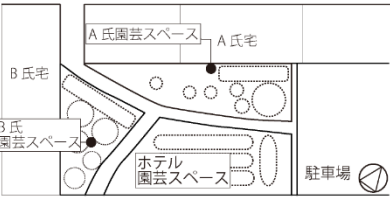
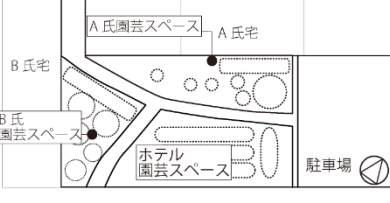
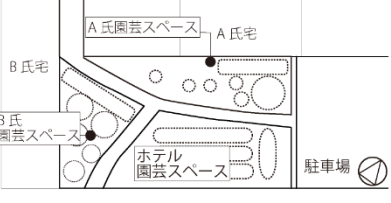
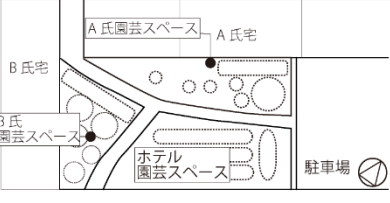
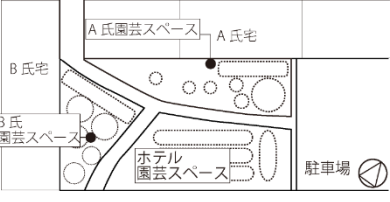
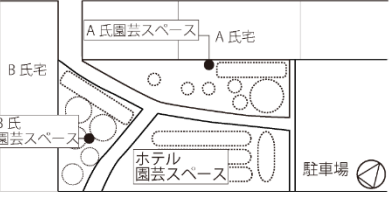
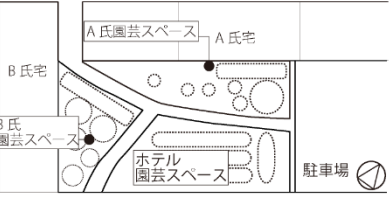
2019/03/24(日) 気温:11℃ 曇り/晴れ 9:00 観察時間 18:00 9:30 12:00 園芸をしている作業時間  ①-⑥:庭の花の紹介をしてもらう ⑦:昔、地域で花見をしようと植えていた桜の木の話聞く ⑧:B氏の花の紹介をもらう ⑨:B氏がいるかどうかドアを開けて確認してみる	2019/03/31(日) 気温:10℃ 曇り/晴れ 9:00 18:00 10:00 12:00  ①-③:新しく買った花の植替え作業をしていた ④:ホテルの畑に植えられているもの話、昔のガーデンの話聞く ⑤:家の前の花を紹介してもらう	2019/04/07(日) 気温:15℃ 晴れ 9:00 18:00 10:00 12:00  ①-③:①の時に通りすがりの人に話しかけられ、庭に植えられている花の紹介をしていた ④:近くの小学校に用事のあった園芸仲間の夫妻が遊びに来る
2019/04/20(土) 気温:16℃ 晴れ 9:00 18:00 9:30 12:00  ①-③:土の入れ替え作業をしていた ④:花の紹介をもらう、見頃であったジャスミンをもらう ⑤:接ぎ木のやり方を教えてもらう	2019/04/28(日) 気温:10℃ 曇り/雨 9:00 18:00 9:30 12:00  ①:土の入れ替え作業をしていた ②:B氏が来て、庭に置いている植木鉢の種類を紹介してもらう ③:B氏にお店の前に置いている花を紹介してもらう	2019/05/01(水) 気温:17℃ 曇り 9:00 18:00 9:30 13:00 16:00  ①:草とり作業をしていた ②:近所の人を呼びに行く ③:庭に置いていたイスをだす ④:イスをならべる ⑤:近所の人から来られると、近所の人と私が話している声が聞こえる距離で作業をしていた ⑥:近所の人に「センニチコウ」のおすそ分けに行く
2019/05/04(土) 気温:25℃ 晴れ 9:00 18:00 10:00 12:00 14:00 18:00  午前中はA氏の姿は見られなかったが、B氏が花の手入れをしに来た ①-④:15時すぎにA氏が来られ、新しい土をまいたり、買ってきたポットを植替えしていた 日中は暑いので、ガーデンが日影になる15時すぎからだとして作業がしやすいとのことだった	2019/05/12(日) 気温:25℃ 晴れ/曇り 9:00 18:00 9:00 12:00  ①:家の玄関前の花の手入れをしていた	2019/06/02(日) 気温:25℃ 曇り 9:00 18:00 9:30 12:00 13:30 15:00  ①:家の玄関前の花の手入れをしていた B氏のあじさいを見る花見が行われた話を聞いた 近所の人が出てこれ、この前の花見はどうだったかや、空き家について話していた話し声に反応して、B氏が来られた

図7 観察調査記録

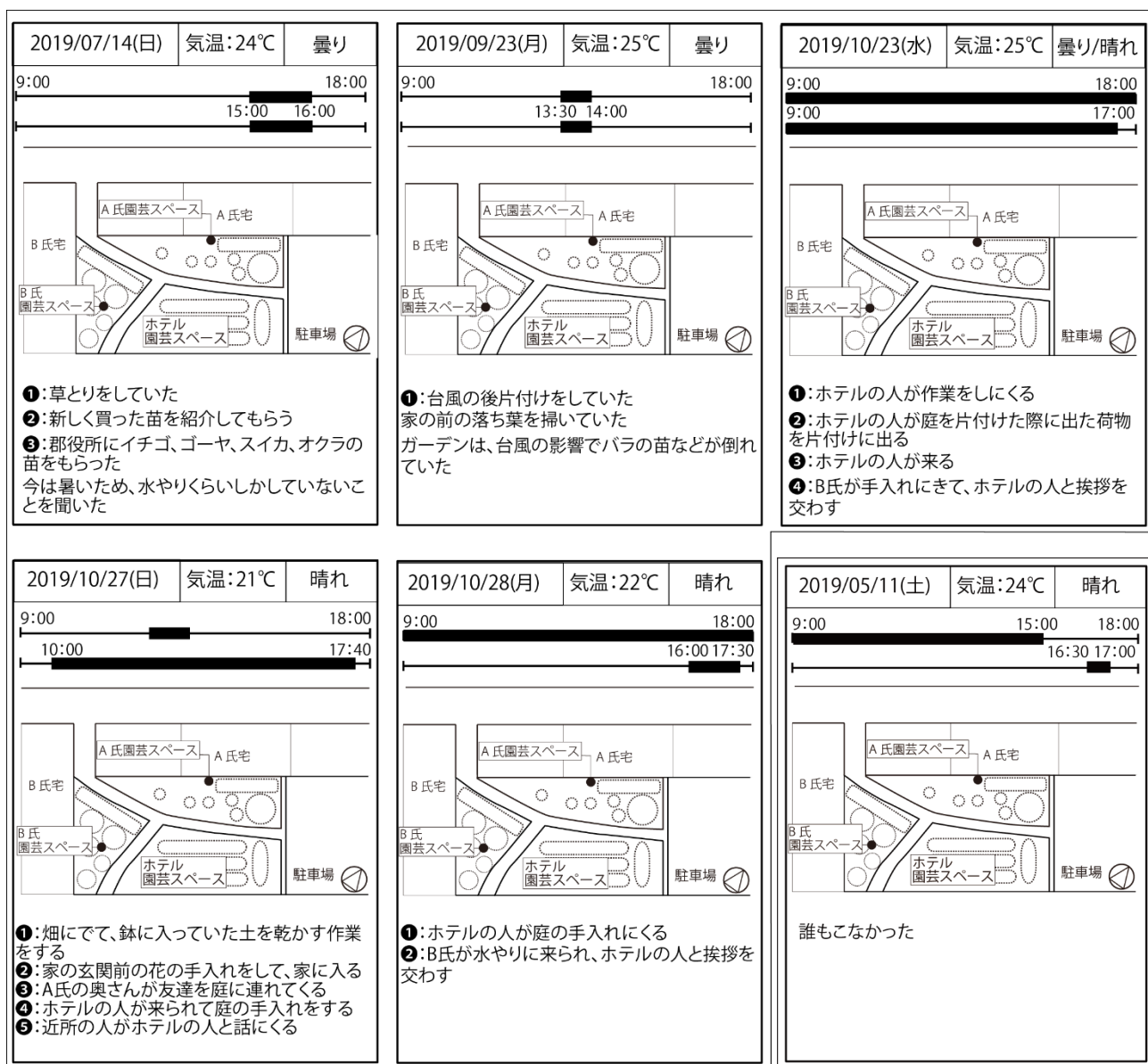


図7 観察調査記録

図8 観察調査記録(利用者を確認できなかった日)⁽¹¹⁾



図9 観察調査を実施した各日についてガーデンで確認できた人数

B氏にも「お茶会はよかー、またして」と話していた。この間ガーデンの近くの住民が「この花植えて」と花を持ってくることもしばしばあった。

(2) ガーデンの土地が縮小されてから

ガーデンとして使われていた土地は、2019年1月より、ガーデンの近く(約45m)にあるホテルが駐車場(借地)として使うこととなった。駐車場計画のことを知りA氏は、この土地のすべてが駐車場になると、町内の安全面や住環境の面において影響がでると考えた。そこで、当該行政区長であったA氏は、町内の意見を

まとめ、土地の借用地に対して「この土地のすべてを駐車場しないで欲しい」というお願いをした。

工事が間もなく開始されることを知ったA氏は、そこで育てていた植物を近くの住民にプレゼントし、ガーデンを閉園した⁽¹⁰⁾。その後、A氏は、工事の進み具合を見ながら、工事に影響しないスペースに興味の一環で花を植

えた。間もなくすると工事は終わり、駐車場(平面駐車場、砂利)は完成した。結果、規模こそは小さくなったものの、趣味でA氏が新たに作っていた園芸スペースは残ることとなった。そして、これが今のガーデンへとつながることになる。

現在は、A氏とB氏が花を育てている園芸スペースの他、ホテルが管理する畑が当該地にはつくられている。また、お茶会は、ガーデン縮小前より頻度こそ減ったが続けられている。

3-5. 調査結果と分析

観察調査の記録を図7、図8に示す。

観察調査より、ガーデンでは通りすがりの人も含め、ガーデン周辺の住民と A 氏 B 氏が話や植物のやりとりが行われていることが確認できた。これに加え、A 氏が手入れをする空間（図 5 中）では、季節に応じて植えられているものが違うことや、雑草の繁殖があまり見られなかったことなどから、頻繁に手入れをしていることと共に、ガーデンのレイアウト検討を楽しむ様子が伺えた。また、調査を行う中で、観察調査中 A 氏の手入れを行う時間帯は、季節ごとに違う時間帯となるが、ある程度同じであることも把握できた。特に春は、植物の生育に重要な時季であるため、他の季節より丁寧に多くの時間をかけて手入れをしていた。

観察調査の結果をふまえ、ヒアリング調査の結果を精査するとガーデンの交流に加え、ガーデンがきっかけとなり始められた植物のやりとりを通じた交流は、住民同士の交流を支える接点になり、これが互いの健康への配慮や生活の支えあいといった見守りにつながっていた。また、「お茶会」を行っていたことから、ガーデンを始めたことで、住民同士の交流が増えていることも分かった。これに加え、ガーデンで植物を育てる人が自らの愉しみとして園芸活動を行うだけでなく、ガーデン周辺に住む住民が外に出るきっかけをつくりだし、多様な楽しみを感じられる場所となっていた。例えば、好きな園芸が楽しめる、つくれた園芸空間によって人を喜ばせることができる、季節の花を楽しめるなどのことである。また、ここでは高齢者同士の交流が多く見られたことから生活の支え合いの点で、ガーデンができたことによるポジティブな効果がみられていると考えられる。これらのことは、ガーデンとつながりがある高齢者の幸福度を向上させていたと言える。

観察調査を実施した各日についてガーデンで確認できた人数を図 9 に示している。ガーデンで活動を行う A 氏や B 氏も季節によってガーデンでの活動頻度に差があることが分かる。これに加え、A 氏や B 氏がガーデンで活動を行っている時のみ、ガーデンでの交流がうまれていることも確認できる。これはガーデンが半公共空間であるため、公園のように気軽に立ち入れる要素を持っていないからだと考える。

4. 成立要件の検討

4-1. 物理的な面からの検討

物理的な面に注目し、この事例で見られた状況が生まれた要因を考えると、ガーデンとして使われている土地の形状が特徴的であったこと、当該地の中でもガーデンとして使われているスペース側は接道条件に恵まれていないこと、土質や日当たりが良かったこと、園芸を趣味としている A 氏と B 氏の自宅近くにガーデンがあったことが挙げられる。

土地の形状について、ガーデンのある土地は、歴史的市街地では多くみられる細長い土地であった。これに加え、この土地は、図 6 の通り、約 1m の高低差があるため、一面を駐車場として使うには、勝手が悪い。そのため、旧往還道側は駐車場として利用されたが、ガーデン部分は、駐車場から守られる形で花壇利用を続けることができた。また、当該地は、東西方向に走る道路に出る通路を持つがその幅は 2m にも及ばず、道路への見通しも悪かった。このことも、この土地の西側が駐車場として整備されなか

った一因であったと考えられる。

ガーデンとして使われている部分は、もともと畑地として使われていた土地で、日当たりもよく、植物を育てるのに適した環境であった⁽¹²⁾。

ガーデン部分は三方を住宅に囲まれているため、季節と時間によって日影になる。5 月から夏にかけては、午後 3 時あたりから、徐々にガーデンは建物の影に入る。結果、夏の厳しい日差しを受けずにガーデンでの活動を行うことができる。また、三方が住宅に囲まれているという特徴は、ガーデンでの活動が、ある程度閉鎖的な環境の中で展開できることにも役立っている。このことが、A 氏や B 氏が活動を安心して行うことができる要因、ここに集まる住民がお茶会を楽しめる要因になっていると考えられる。

園芸が趣味である A 氏と B 氏が、ガーデンの近くに住んでいたこともガーデン成立の要因であった。近くに住んでいることで、ガーデンに通うことが負担にならず、日常の中で目の届く範囲で植物を見守ることができるため、管理もしやすいと考えるからである。水やりは、B 氏は自宅の水栓からホースを使い行っている。A 氏は、自宅の水栓からジョウロを使い、水やりを行っているが、運動の面でのメリットもあると述べていた。

4-2. 社会的な面からの検討

社会的な面に注目すると、土地所有者と町内会が良好な関係を築けていたこと、A 氏と B 氏が園芸をもともと趣味にしており、ガーデンでの活動を義務として捉えていなかったこと、町内の高齢化が進んでおり A 氏と B 氏が近所の高齢者のことを気にかけていたこと、これらがここでの状況を支えた要因として挙げられる。土地所有者と町内会が良好な関係を築けていたことについては A 氏が以前から当該地の草刈りなどを行っていたことや、B 氏もこの土地の所有者と遠くない関係にあったことが影響していると考えられる。このような関係が既にできていたため、町内で土地を使うということになったのだろう。ガーデンは、植物を育てる A 氏と B 氏にとっては、それぞれの趣味を楽しむ場になっていた。女子会に参加している人をはじめとした近所の人にとっては、憩いの場になっていた。これは、結果的にガーデン近くに住む高齢者の見守りに役立っていたことに加え、高齢者の生活の幸福度を向上させていた。ここに、このような場ができたのは、ガーデンから A 氏や B 氏の人柄を感じられる状況ができていたからだと考えられる。ガーデンで植物を育てる人同士も、お互いの活動を感じあえることで、自分の活動に精を出すことができるようである。近所の人や通りすがりの人にとっては、ガーデンで活動する人の好みや、ぬくもりを感じることができるため、ガーデンに咲く花々に惹きつけられるとのことである。

A 氏と B 氏が、ガーデンでの植物の管理を、あくまで趣味活動と位置づけ、活動を義務化していないことや、それぞれ各自のペースで植物の手入れができていたことも、ガーデンでの活動を継続させるものになっている。また、A 氏と B 氏が町内の住民を積極的に気にかけていることも、ガーデンの持続要因の一つとして挙げられるだろう。ガーデンができた当初、特に A 氏は、町内の人と意識的に交流をしていたが、それを続けることによって、ガーデンを通して植物を育てる活動が、人と出会い、交流をするこ

とができるものだ実感できている。また、交流をうみだすためには、見る人が喜んでくれる場所にしないといけないという A 氏の想いがガーデンでの活動の向上心にもつながっている。

他方、町内で高齢化が進んでいたこともガーデンが地域に受け入れられやすくなったという点で有意であったと考える。近くに住む住民が子育て世代のように忙しい世代でなく、時間にゆとりのある高齢者であったからこそ、植物を通じたガーデンでの交流は、好適であったと考えられるからである。

5. まとめ

本研究の結果を以下に示す。

旧往還道路沿いの非建ぺい地について土地利用を調査した結果、その全てが駐車場として利用されていたことより、地区内の道路沿いの非建ぺい地は駐車場化する傾向が強いと考える。

空き地であった場所を趣味園芸の場として、半公共的に利用した「まちのガーデン」について事例研究より、以下の知見を得た。

本研究が事例とした「まちのガーデン」は空き地であった場所を半公共的に利用し、現在では駐車場との二面利用を行っている。高齢者が場や空間づくりを行っているため、結果的に高齢者の見守りに役立っていたことに加え、高齢者の生活の幸福度を向上させていた。ガーデンが、近くに住む高齢者の交流の場となり、このような場所ができたこと、またそこで住民同士の交流ができることを住民たちは喜んでいて、植物を育てるといった活動を行っている人たちにとっても、好きな趣味を楽しむことができ、行われている活動によって、周囲の人の生活にも、活動を行っている人との交流を楽しめるなどの影響を与えていた。ガーデンでの活動を日常的に楽しんでいるガーデン近くの住民は高齢者であったため、生活圏内にガーデンがあることで、身体的に負担なく気軽に外に出るきっかけにもなっていた。これに加え、外部での様々な密度のふれあいを日常的に重ねることで、生活の支え合いや見守りにつながっていた。これは、近隣住民との良好な関係を続けていくうえで、有用な手立てになっていることが分かった。これらの点は、生活が閉鎖的になりやすい高齢者の生活を支えるものになる。

一方で、今回対象としたガーデンでは、ガーデンで作業をする人がいない場合は、人びとの交流はうまくいかないことも分かった。これは、ガーデンとして使われている土地が民有地であるうえ、ガーデンは人通りが、多い旧往還道路から見えづらい位置にあることが影響していると思われる。

成立要件については、物理的な面と社会的な面から考察を行った。物理的な面では、空き地が駐車場として利用されやすい歴史的市街地において、ガーデンのある土地は、歴史的市街地で多くみられる細長い土地であったため、土地には接道条件などから二面性があり、なおかつ敷地内で高低差が生じていたため、駐車場と園芸スペースとしての二面利用をすることができていた。社会的な面では、空き地の所有者とガーデンのある町内が友好的な関係を築けていたことや、ガーデンの近くに植物を育てるのが好きな人が住んでいたこと、ガーデンがガーデンの近くに住民に受け入れられやすい環境にあったことが挙げられる。

極めて限られた条件ではあるが、上記のような環境が合致したため、ガーデンは成立し、当該地の駐車場化の中で規模は縮小されたが、持続できていると考えられる。

このような結果を共有し、実践を積み重ねていく中で、空き地の活用についての見方が変わっていくことが期待される。

謝辞

本稿をまとめるにあたり、八女福島地区住民の皆さまに多大なるご協力をいただきました。ここに記して謝意を表します。

補注

- (1) 三好他 (2017) 「密集市街地の民有地を暫定利用する防災空地の評価手法の検討-神戸市「まちなか防災空地整備事業」を対象として」、日本都市計画学会都市計画論文集, Vol. 52, No. 3, pp. 293-300
- (2) プライバシーにも関わるため、本研究では仮称を用いる。また図 4 も同様の意図で模式図とする。
- (3) 熊本大学講義資料より
- (4) 図 3 は図 2 中の Area と対応している。
- (5) 天気や気温に関しては、日本気象協会が運営しているインターネット記事より記録した。
- (6) 水準測量により測った。
- (7) 土地所有者は複数名いたため、代表者と思われる人。
- (8) A 氏へのヒアリング調査の結果に基づく、当該地が空き地であった時、A 氏が厚意で草刈りなどを行っていたことが、土地所有者が申し出をしたことに影響しているのではないかと推察される。
- (9) お茶会とは、花々を見ながらお茶を飲み談笑する会である。
- (10) 工事が行われることが決まっていた段階で土地の所有者と直接交流のあった B 氏は、所有者より、「今まで管理してもらっていたから、今までどおり使って良いですよ」と言われていたそうである。
- (11) 利用者を確認できなかった日が計 20 日間あった。
- (12) ガーデンで花を育てることができたのは、ガーデンのある土地の奥が畑地であったことから、花が育ちやすい土質であったためである。一方で土地の前は、地植えて花の種をまいていたが、宅地であったためなかなか芽がでない状況にあった。

参考文献

- 1) 内野 (2020) 「歴史的市街地における外部での園芸活動による生活の質向上に関する研究-八女福島地区を事例として-(2019 年度有明工業高等専門学校特別研究論文)」
- 2) Ayaka Uchino, Koji Kato (2019) 「A study on the vacant lot management system in historical urban areas, the 20th Walk 21 Conference in Rotterdam」